

まちづくりはひと粒の個性から。

ひとつぶ

市民活動・NPO
センターだより
2026 Spring



途切れず続く、温かな輪 -50年の歩みと“続ける力”-

「ここに来たら誰かがいて、楽しくなって笑顔で帰れる場所でありたい」。

そんな想いで歩んできた手話サークル「シュワッヂ」が大切にしてきたのは、立場や年齢に関わらず、誰もが受け入れられる温かな居場所づくりです。かつて手話を学んだ子どもが大人になって復帰したり、16年ぶりに講習会に戻ってきたメンバーがいたり、親子で一緒に学ぶ家族がいたり。学び、伝え、また学び直す。その循環の中で、活動は次の世代へとつながっています。毎週の手話講習会や小学校での手話教室、地域イベントでの活動を通して、シュワッヂは地域の“つながり”を育み続けています。50年の歩みは、静かで力強く、そして温かいものでした。あなたも、この輪に加わりませんか。



団体紹介

手話サークル「シュワッヂ」

手話サークル「シュワッヂ」は、1975年に設立された宗像市の市民活動団体です。聴こえる人も聴こえにくい人も聴こえない人も、互いに支え合いながら手話を学び、50年にわたって地域に手話の輪を広げる活動を続けています。



「ひとつぶ」とは？ 一人ひとりが自分のペースで気軽に地域とつながる情報紙です。



「シュワッヂ」さんに
インタビュー
しました！

CHECK!



想いをカタチにする！

地域活動プロセスマップ

- 補助金活用編 -

「何かしたいけど、何からはじめたらいいのかわからない」

そんな気持ちを抱えているのは、あなただけではありません。

今回は、宗像市人づくりまちづくり事業補助金（人まち補助金）を活用し、活動を“循環・継続”させていく4つのプロセスを紹介します。あなたのペースで「やってみたい」を少しずつカタチにしてみませんか。



活動のための相談窓口

宗像市 市民活動・NPOセンター（メイトム宗像内）

市民活動・NPOセンターでは、人まち補助金の申請相談から活動を継続するためのサポートも行っています。説明会・報告会などへの参加も大歓迎です。補助金の申請を検討する団体は気軽にご相談ください。

人まち補助金に関することは
ウェブサイト「ひとつぶ」をチェック！ ➤



市民活動・NPOセンターの想い



「新しいことに挑戦したい」「これまでの活動を、もう一步広げてみたい」。
ひとつの取り組みが人や地域と新たなつながりを生み、また次の活動へつながっていくことで、団体それぞれの力や強みが、宗像のまちをより良くしていきます。
「こんなことに補助金使えるかな」「まずは話を聞いてほしい」そんなひと声からで大丈夫です。活動が続き、広がっていくプロセスを、ぜひ一緒につくっていきましょう。

NPOセンタースタッフ

宗像市の想い



人づくりまちづくり事業補助金は、単なる資金の支援だけではなく、団体自身の成長や事業の発展につながる機会をつくるものだと考えています。ぜひ次のステップへの勉強期間や準備期間だと思って、少し先のことに目を向けて活動してみませんか？活動が循環し続していくことで、団体がさらに力をつけ、身近な誰かのため、そしてより良いまちづくりのために活躍してもらえることを期待しています。

コミュニティ協働推進課 政策係

補助金で広がる活動のカタチ

補助金は、活動をはじめるためだけではなく、次へつなぐための力にもなります。
実際に宗像市で行われた取り組みから、人まち補助金の活用事例をご紹介します。

※めぶきコースの活用事例

活動事例①

周年イベントの実施



団体名 手話サークル「シュワッヂ」

団体設立 1975年



団体設立50周年の記念公演として、聴覚障害のある人が運営・出演する劇団を招いた公演を開催しました。補助金を活用したことで、これまで実現が難しかった企画にも挑戦することができ、広く市民に向けて、聴覚障害への理解や手話の普及につながる機会となりました。

活動事例②

備品の購入



団体名 特定非営利活動法人むなかた子ども劇場

団体設立 2002年



毎月発行している会員向けのお知らせ「げきじょうつうしん」の印刷のために、プリンターなどを購入しました。カラー印刷が可能になり、情報が見やすくなつたことで、活動や取り組みをより分かりやすく伝えられるようになりました。今後は広報にも力を入れ、活動への関心を広げていきます。

活動事例③

視察研修



団体名 宗像歴史観光ボランティアの会

団体設立 2006年



団体内の世代間交流や、他のガイド団体との交流を通じて、観光ボランティアとしてのスキルアップを図るために、視察研修を実施しました。世代を超えた知識の共有や新たな視点を学ぶ機会となり、団体の活性化につながりました。

活動事例④

お試し事業の実施



団体名 ココカライベント企画室

団体設立 2020年



オリジナル創作スポーツ「HANZO（ハンゾー）」の立ち上げにあたり、武器の制作や和太鼓の購入などに補助金を活用しました。子どもから大人まで楽しみながら挑戦し、自信や「何かをはじめてみよう」という前向きな気持ちを育む場づくりを目指していきます。

△この人に聞きました△



人まち補助金を活用後も事業を継続している
NPO法人 メイクハッピー＆ピース
代表 仲西 浩一さん

先輩に聞く！
補助金活用のコツ



1. 補助金の目的を理解する

「地域の課題解決」や「人材育成」など、補助金ごとに定められた目的や趣旨を正確に把握することが大切です。自分たちのやりたいことを一方的に主張するのではなく、その補助金が「何を求めているのか」を理解し、団体の活動が地域や社会にどのように貢献できるのかを明確にしましょう。

2. スモールステップで「まずはやってみる」

「自分たちがやりたいこと」と「地域が求めていること」が合致するかは、実際にやってみなければわかりません。小さくても実践を重ねながら、地域の課題やニーズ、手応えを確かめていく。そうした活動の積み重ねが、団体の基盤を固め、信頼へつながります。

3. 継続を意識して活動する

補助金ありきで考えるのではなく、自分たちだけで持続可能な「無理のない規模」の活動からはじめることが大切です。補助金は、あくまでも活動を充実させるための手段であり、目的ではありません。まずは、補助金がなくても活動を継続できる仕組みや体制を整えましょう。

Information

活動の効率化を図る

今回は

お役立ちツール紹介

LINE オープンチャット

今回紹介するのは、さまざまな用途に活用できるLINEの便利ツール「オープンチャット」です。

- 普段のLINEと分けて使える
- 友だちにならなくてもつながれる
- 匿名参加で出入り自由
- 情報交換しながら交流できる

関心はあるけれど、深く関わるのは少しハードルを感じてしまう。そんな時にちょうどいい距離感で参加できます。

作成のポイント

- 始める前にルールを決めておくと安心

- 例**
・個人情報は入力しないでください
・あいさつ不要 / 宣伝禁止

- 「説明」欄に場の目的を書きましょう

- 例**
「このチャットは○○イベントについてのやり取りを行う場です」

かんたん 作成3ステップ

①メイン画面を開く



このマークをクリック

②作成ボタンを押す

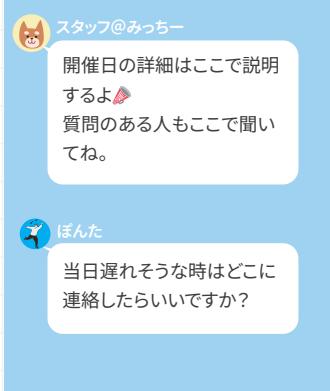


③名前を入れる

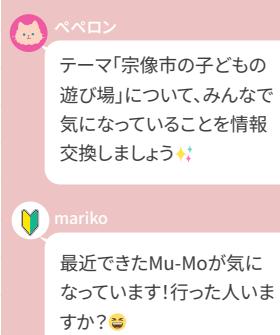


活用例

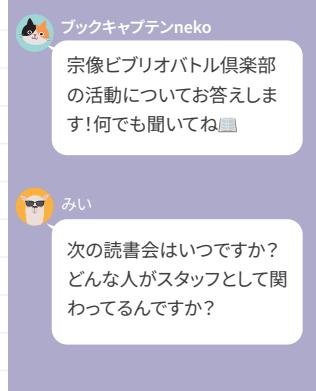
講座・イベントの説明会として活用



テーマに関心のある人と情報交換の場として活用



市民活動団体の公式チャットとして活用



市民活動団体登録情報

新しく登録された市民活動団体を紹介します。

- むなかた大島波波クラブ
- 日の里ソフトテニス倶楽部
- ニヤンヒワンの家
- 紬(つむぎ)
- ウェルネスタウンむなかた

※令和7年7月~12月末までに新規登録した団体

団体登録数

141

団体の詳細は
こちらから



宗像市 市民活動・NPOセンターで働くスタッフを募集しています

地域の活動や人の想いを、
少し後ろから支える仕事です。



2026年春からの
スタッフ募集について、
詳しくはこちらから



市民活動についてのご相談はこちら

アンケートプレゼントコーナー

アンケートに答えていただいた人に抽選で
「あいす工房らく農家 シングル券」を
プレゼント!

当選者の発表は3月下旬、プレゼントの発送を
もって代えさせていただきます。

応募締切は**3月20日(金)**

2026年1月29日(年2回)発行 編集/一般社団法人 PENTAGON 表紙・中面デザイン/司馬さやか (<https://www.shiba-sayaka.net/>)



抽選で
3名

NPOセンター
公式LINE



宗像市 市民活動・NPOセンター

- [住 所] 宗像市久原 180 番地 メイトム宗像内
[TEL] 0940-36-0311
[mail] info@pentagon67.com
[開設時間] 9:00~17:00 (土日祝日休み)
[運 営] 一般社団法人 PENTAGON

ウェブサイト
ひじぶ

